

プレスリリース

報道関係各位

2017年6月27日  
慶應義塾大学 SFC 研究所  
株式会社 KADOKAWA  
株式会社講談社  
株式会社集英社  
株式会社小学館  
株式会社出版デジタル機構

## 未来の出版に関するラボラトリ(Advanced Publishing Laboratory : APL) 発足のお知らせ

このたび、慶應義塾大学 SFC 研究所と株式会社 KADOKAWA、株式会社講談社、株式会社集英社、株式会社小学館、株式会社出版デジタル機構は、共同で慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス (SFC) に、未来の出版に関する研究をおこなう Advanced Publishing Laboratory (APL) を設置することで合意しましたのでお知らせいたします。

### 1. APL 設立の経緯

APL の設立は、日本でも広く使用されている電子書籍の国際標準規格 EPUB の管理運営が、インターネットの国際標準化団体 World Wide Web Consortium (W3C) に統合され、W3C 内に Digital Publishing Business Group が設けられたことをきっかけとしています。

この統合によって、未来の出版はインターネットのパブリッシングとより親和性を増すこととなります。日本の出版が新しい時代に適応し国際競争力を高めるためには、世界に誇る質の高い日本の伝統的な出版技術とデジタル技術の融合をさらに推し進める必要があります。そこで、出版 4 社とデジタル技術で出版業界の変革を目指す出版デジタル機構は、W3C で重要な役割を果たす慶應義塾大学 SFC 研究所 (註 1) の全面協力を得て、APL を設置することとなりました。

### 2. APL の活動内容

APL は 2 年間の活動を予定しております。

ここでは国内有識者の知見を結集し、現在の EPUB 規格の国際的な維持管理、そして次世代規格の標準化に対して、積極的な貢献をします。標準化の対象には、障害者差別解消法の精神に則ったデジタル技術の活用によるアクセシビリティの研究も含まれます。また、世界でも存在感のある日本のエンタテインメント文化や精緻な日本語組版を海外に紹介する活動、逆に海外の出版に関するデジタル技術情報を国内に紹介する活動など、積極的な情報交換や普及展開に関する活動も推進していきます。

さらに APL は、これまで培われて来た出版の知識と最新のデジタル技術に関する教育プログラムも予定しています。このプログラムを通して、APL は専門知識や情報技術を活用して国際的な市場で活躍できる人材、未来の出版そのものを支える人材の育成を目指します。

註 1 : 慶應義塾大学の SFC 研究所は W3C の東アジア (中国を除く) 担当ホストであり、アメリカ合衆国マサチューセッツ工科大学計算機科学人工知能研究所 (MIT CSAIL)、フランスに本部を置く欧

州情報処理数学研究コンソーシアム (ERCIM)、北京航空航天大学 (Beihang) とともに W3C の共同運営者です。

〈問合せ先〉

慶應義塾大学SFC研究所APL事務局  
TEL 03-3516-2504 FAX 03-3516-0617  
E-mail : [aplab@awa.sfc.keio.ac.jp](mailto:aplab@awa.sfc.keio.ac.jp)